

平成 30 年 5 月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：平成 30 年 5 月 23 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

開催場所：岡崎市役所西庁舎 7 階 西 702 号室

出席委員：8 名

加藤安信委員（会長）・野本欽也委員（会長職務代理者）・内田尚之委員・
荻野嘉美委員・奥田敏春委員・小林吉光委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員

欠席委員：杉坂美典委員・杉野丞委員・鷹巣純委員

説明のために出席した事務局職員：5 名

社会教育課：柴田英代副課長・菅沼貴之岡崎城跡係長・岡山幸男主任主査・
山口遥介主査・中根綾香主事

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

市指定史跡岡崎城跡の発掘調査に伴う現状変更について

2 報告事項

（1）市指定史跡松平広忠公御廟所の追加指定について

（2）歴史文化基本構想について

（3）平成 29 年度事業実績及び平成 30 年度事業計画について

3 その他

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

市指定史跡岡崎城跡の発掘調査に伴う現状変更について

【社会教育課説明】

岡崎市指定史跡岡崎城跡の現状変更について、諮問する。この現状変更は、岡崎城跡整備計画に基づく発掘調査であり、既に岡崎城跡整備委員会で協議済のものであることや開発や破壊を伴うものではないため、当審議会の協議を経ることなく、諮問という形をとっている。史跡の価値向上に資する調査であり、不要な掘削はしないため、物件への影響は最小限に留める予定である。今回の発掘調査は、天守台石垣の根石を確認することを目的に 3 か所実施する。トレンチ範囲については、施設の状況などを考慮して設定した。昨年度、石垣保存修理基本計画を策定し、目視で危険度判定を行なった。その結果、危険度が高いと判断した石垣が 8 か所あり、その中に今回の調査対象である天守台の北側と西側の 2 面も含まれている。北側には非常階段もあり、災害時に石垣が崩れるようなことがあると、危険性が高いことから、発掘調査により根石の状況等を確認していきたいと考えている。岡崎城内で根石・基礎構造が判明しているのは、菅生川端と菅生曲輪の 2 か所だが、この 2 か所は低地であり、今回の天守台付近は台地である。今回の調査で、台地上の石垣構造を推定することができると考えている。今回の調査に当たり、絵図や古写真の整理を行った。天守台石垣は、一般的には田中吉政入城後に築かれ、前本多が再建したと考えられている。絵図や古写真での現状との相違点を意識しながら、石垣の根石構造の把握をしたいと考えている。

【質疑応答】

委員：石垣の修復歴は把握しているか。

事務局：石垣カルテの作成の際に確認をしたが、天守台石垣では、南面及び東面については、下半分くらいは築城当時のもの、井戸櫓付近は前本多段階、西側・北側については、積み直しをしているのではないかと考えている。

委員：石垣カルテは石垣の基礎資料としてよくできている。中日新聞にも掲載されていた。色々な方に関心を持ってもらえるのではないかと。

委員：根石までの深さはわかっているか。

事務局：わかっていない。

委員：南・東の角の石垣は湾曲があると見ているか。現状、逆反りがあるのは単に石垣がずれた結果ではないか。

委員：成果を還元する説明会などを開催してほしい。

【諮問結果】可とする。

2 報告事項

(1) 市指定史跡松平広忠公御廟所の追加指定について

【社会教育課説明】

市指定史跡松平広忠公御廟所の追加指定について、指定書の内容について、本審議会の指摘を受け、修正したことを報告した。

【質疑応答】

委員：松應寺の「しょうおうじ」か「しょうおんじ」どちらで読むか。漢字の読みとしては、「しょうおうじ」だと思うが、地元の方は「しょうおんじ」と呼んでいる。

委員：「しょうおうじ」が正しい。住職もそのように言っている。「おん」は尊敬の意味を込めて呼んでいるという話を聞いたことがある。

委員：松應寺の「應」は、旧字が正しいか。

事務局：指定名称には出てこないが、旧字が正しい。

委員：今回の件には直接関係しないが、指定名称に関わる場合は、旧字を使用するかは問題となってくる可能性がある。瀧山寺の「瀧」の字も同様な問題がある。

事務局：松應寺は、旧字を使用するよう住職から話があった。

事務局：瀧山寺は、国の指定名称が「滝」であるため、簡単には変えられない状況である。

(2) 歴史文化基本構想について

【社会教育課説明】

平成 29 年度から策定準備を進めている歴史文化基本構想について、H30.4.1 現在で愛知県内で4市（名古屋市、瀬戸市、豊田市、知立市）が策定済であること、現在、国会で文化財保護法の改正案が審議中であること、平成 29 年度～平成 32 年度の4か年をかけて策定を予定していること、昨年度に引き続き歴史的建造物調査や準備会の開催等を行っていくことを説明。

【質疑応答】

委員：教育委員会としてどのようなものを考えているのか。

事務局：現在、しっかりとしたイメージができていないが、準備を進めていく中で目指すべきあるべき姿を決めていかなければいけないと考えている。

事務局：本来は、歴史文化基本構想があって、歴史的風致維持向上計画を作るのが本来であるが、岡崎市の場合は、歴史的風致維持向上計画が先にできている状態であ

る。歴史的風致維持向上計画には、社会教育課も事務局として参加しており、どこいうところに歴史的建造物や伝承文化があり、何を重点的に維持向上していくか、ということを考えながら、岡崎市の歴史を調べ、7つの風致を取り上げている。そういったものができれば、というイメージをしている。

委員：地域の文化を支援するためには、現状把握が重要である。地域に入って一緒に考えていく必要がある。

事務局：本構想が地元の皆さんが文化財のことを考えるきっかけとなればよいと考えている。行政だけではうまくいかない。

委員：専門分野別に担当が分かれているので、それぞれで部会のような形でまずは、現状把握をしていってはどうか。

委員：情報をつかんだ時点でどのように動くか、ということを決めておくことが重要なのではないか。

委員：文化財群という考え方でストーリーの設定をする必要があると思う。歴史的風致維持向上計画では、北部や矢作が手薄であったので、そのあたりを把握できると良いと思う。

委員：額田地域の山里の暮らしに関する調査も不足している。

委員：未指定のものであっても補助の対象になるのか。

事務局：構想にどのように位置づけるか、によるが、はっきりしたことは言えない。

委員：委員だけでは時間が足りない。どのように進めていくのか。

事務局：現在は準備会であり、委員の方だけで進める訳ではない。H31～H32年度の策定委員会では、広く市民の方もご参加いただくことも考えている。

事務局：指定文化財はある程度把握しているが、未指定のものを把握していくことが重要と考えている。調査は数年では終わらないため、予算を確保しながら、長期的に調査を継続していきたい。

委員：伝承文化の分野では後継者の問題が深刻。記録をしていくことが重要。

委員：私の地区では、常夜灯の火をつけたりする風習が残っている。面倒だなあ、というのが普通の感覚だと思うが、このような活動に歴史的な価値づけをしてみると、地域にとって非常に励みになる。

委員：紙だけではなく、Web上でも情報の発信が必要。岡崎市役所HPで文化財の情報が得られるような仕組の構築をしてほしい。

事務局：昨年度指摘を受け、一部対応済であるが、さらに充実していきたい。

委員：指定文化財だけではなく、未指定文化財も含めた文化財データベースを作っていくべき。

事務局：現状の把握、課題の整理が重要とのご指摘が多かった。次回以降、それぞれの担当者から連絡を取らせていただいた上で、議論を進めていきたいと考えている。

(3) 平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画について

【社会教育課説明】

資料に則り、平成29年度の事業実績、平成30年度の事業計画について報告した。

【質疑応答】

委員：岩津城跡の西側はシートで覆われているが、どのような状態か。

事務局：崩れてきて危険なため、柵の設置及びシートでの覆いを行なった。

委員：大川神明宮の修理はどの部分か。

事務局：茅葺屋根の葺き替えを予定している。

委員：菅生曲輪の発掘調査報告書はどのように出るのか。

事務局：通常は遺構編が先で、遺物編が後だが、今回は、遺物編を先に刊行した。

3 その他

(1) 次回以降の審議会開催について

次回審議会は平成30年8月21日(火)に実施予定